

# 「職場の年末安全衛生推進運動」の実施について

## 安全衛生管理活動のさらなる取組を!!

名古屋北労働基準監督署

(表1) 平成27年・26年名古屋北労働基準監督署管内労働災害発生状況 (1月～9月)

(件)

業種	27年 発生件数	26年 発生件数	業種	27年 発生件数	26年 発生件数
小計	145	121(1)	土石採取業	0	0
食料品製造業	33	28	建設業	48(2)	55(3)
繊維工業・ 繊維製品製造業	2	0	道路旅客運送業	24	22
木材木製品・ 木製家具製造業	3	3	道路貨物運送業	75	77(1)
紙加工品製造業・ 印刷製本業	22	18	陸上貨物取扱業	19	15
化学工業	10	4	商業	92	123(2)
窯業・ 土石製品製造業	5	4	金融・広告業	16	8
鉄鋼業・ 非鉄金属製造業	3	3	保健衛生業	34	30
金属製品、 金属家具製造業	32	31	接客娯楽業	39	57
一般機械器具製造業	12	14(1)	清掃業	17	20
電気機械器具製造業	7	5	ビルメンテナンス業	34(1)	34
輸送用機械器具 製造業	4	1	その他の事業	69(1)	51(1)
その他の製造業	12	10	合計	612(4)	613(8)

( ) 内は死亡者数で外数

名古屋北労働基準監督署管内の労働災害は微減

名古屋北労働基準監督署管内の平成27年9月末現在における労働災害発生状況は、(表1)のとおり死傷者数は616人と前年同期に比べ5人減少しました。死亡者数は、4人で前年より4人の減少となっています。業種別でみると建設業、商業、接客娯楽業等が減少した一方で、製造業で大幅な増加、金融・広告業等が増加しています。製造業では、食料品製造業や化学工業において増加が目立っています。死亡災害は(表2)のとおり、建設業における墜落が1件と交通事故が1件、清掃・と畜業における交通事故が1件、その他の事業における高温物との接触が1件発生しています。休業4日以上の災害612人について同様に事故の型別災害発生状況(表3)でみると、「転倒」災害で122人と休業災害全体の19・9%を占め、「墜落・転落」災

(表2) 平成27年死亡災害発生状況

業 種	事故の型	発生状況
清掃・と畜	交通事故	清掃業務を行っていた労働者が、台車にゴミを乗せて外のゴミ箱に運ぼうと道路を移動中、後ろから走行してきた乗用車にひかれ、脳挫傷により死亡したものの。
建設業	墜落・転落	携帯電話基地局のコンクリート柱をたて、高所作業車から柱へ移る際、柱に移って何らかの作業をしていた際に地上に墜落したものの。
警備業	高温・低温の物との接触	工場での警備の仕事を終え、帰宅途中であるはずの被災者が、熱中症で路上に倒れていたところを発見されたものの。
建設業	交通事故	営業訪問で徒歩移動中に道路を横断する際に普通乗用車にはねられたものの。

(表3) 事故の型別災害発生状況

事故の型	(件)	
	27年 発生件数	26年 発生件数
墜落・転落	115(1)	126(3)
転倒	122	127
激突	51	46
飛来・落下	25	33(1)
倒壊・崩壊	23	25
激突され	23	19
はさまれ・巻き込まれ	73	77(2)
切れ・こすれ	42	42
踏み抜き	4	1
高温・低温の物との接触	14(1)	11
有害物等との接触	3	3
感電	2	2
火災	1	1
交通事故	60(2)	49(2)
動作の反動・無理な動作	46	43
その他	8	8
分類不能	0	0
合 計	612(4)	613(8)

( ) 内は死亡者数で外数

害で115人(18・8%)、「はさまれ・巻き込まれ」災害で73人(11・9%)が被災しており、依然としてこれら3つの型(在来型の災害)で全体の約5割を占めています。

このような中、年の瀬を迎える慌ただしさの中で、不幸な労働災害により、働く仲間の誰一人としてケガすることなく、明るく新たな年を迎えられる職場を作ることを目指して、危険源の性質に着目したリスクアセスメントの手法を用い、論理的な安全管理の推進と定着のため、本年度は12月1日から12月31日ま

で「無災害 みんなで迎える 明るい新年」をスローガンとして「平成27年度職場の年末安全衛生推進運動」を実施します。各事業場において職場の安全衛生点検を実施するとともに、安全管理活動のさらなる取組をお願いいたします。